

令和3年度多摩市立図書館事業評価

多摩市読書活動振興計画に基づく重点的事業 基本目標(1) だれもが使える図書館	
評価項目 【取り組み2】 若年世代の利用促進	
① 図書館を利用していない若年世代の図書館や電子図書館の利用促進を図るため、図書館の広報を図書館ホームページだけでなく、多様な手段、場所での広報活動を実施する。【継続・新規】 ② 図書館の利用促進を図るため、図書館に関心をもってもらえるようなテーマ展示やブックリストの作成などをおこない、市内の学校に配布するなど広くPRする。【新規】 ③ 中高生参加型、学校連携、他校の生徒との交流ができるイベントを感染予防対策をしながら実施する。【継続・新規】	
実施結果 (具体的な取り組み状況)	① 図書館を利用していない若年世代の図書館や電子図書館の利用促進を図るため、図書館の広報を図書館ホームページだけでなく、多様な手段、場所での広報活動を実施する。【継続・新規】 ・全職員に多摩市公式SNS（Twitter・LINE）に掲載に対する周知を行い、電子図書館の到着案内や各館の企画展示・イベント、おすすめ本紹介等の広報について、図書館ホームページだけでなく多摩市公式SNSにより情報発信をした。 ➢ 多摩市公式SNS発信件数 61件 ・ティーンズ向けの電子書籍を購入し、テーマを決め紹介するとともに、2週間ごとなど定期的に電子図書館トップページに表示される電子書籍の書影の入れ替えをおこなった。学校教職員向けの利用案内を新規作成し電子図書館の活用事例についても紹介した。またほんともフェスタではパネル掲示やチラシを配布しPRした。 ➢ ティーンズ向け電子書籍購入数 106件 ➢ 学校教職員向け利用案内を市立小中学校に配布 小学校17校 中学校9校
	② 図書館の利用促進を図るため、図書館に関心をもってもらえるようなテーマ展示やブックリストの作成などをおこない、市内の学校に配布するなど広くPRする。【新規】 ・令和2年度に本館で実施した(1)NDC擬人化キャラクター紹介展示を全館で順次実施し、(2)ほんともフェスタではグリナード永山で展示を行った。 (1) NDC擬人化キャラクター紹介巡回展示 4/23～7/7 実施【永山】 7/28～8/31 実施【豊ヶ丘】 9/1～10/31 実施【唐木田】 11/5～11/21 実施【関戸】 12/22～3/29 実施【聖ヶ丘】 3/2～4/26 実施【東寺方】 (2) ほんともフェスタ 2/26～3/1 実施【グリナード永山】 ・ティーンズ向けの企画展示を実施するとともに、ブックリストを作成し、図書館ホームページに掲載した。また、展示期間終了後も図書館ホームページの「ブックリスト」内に掲載している。 ➢ ティーンズブックリスト作成テーマ数 本館5件 永山3件 東寺方2件 ➢ ティーンズ企画展示ブックリスト作成テーマ一覧 「世界の児童文学賞受賞作品」「作文・レポート・小論文」「昔ばなし色々」「秋を満喫しよう！」「春までもう少し」「ほとばしる青春」「今、注目したい偉人4選とその名言」

実施結果 (具体的な取り組み状況)	「互いを知る」「選挙について考える」「夏に読みたいティーンズ本」							
	③ 中高生参加型、学校連携、他校の生徒との交流ができるイベントを感染予防対策をしながら実施する。【継続・新規】							
	・コロナ禍のためビブリオバトルは実施しなかった。代わりにほんとにもフェスタでビブリオバトルの紹介展示を行った。併せて大妻女子大学図書館サークル OLIVE に依頼し、おすすめ本を 10 点紹介する POP を作成し掲示した。おすすめ本は紙の本以外に電子書籍からも選定し紹介した。							
	➤ ほんとにもフェスタ展示期間 グリナード永山：2 月 26 日～3 月 1 日 本館：3 月 7 日～3 月 31 日 紹介した本 紙の本 10 点（内電子書籍 5 点） 図書館を利用しない市民にも展示を通じて図書館やビブリオバトルの P R ができた。							
	➤ 大妻女子大学図書館サークル OLIVE おすすめ本の利用状況(令和 4 年 2 月 26 日～3 月 31 日)							
		タイトル	著者名	出版社名	所蔵冊数	貸出回数	電子書籍の所蔵状況	電子書籍の貸出回数
	1	オー！ファーザー - a family-	伊坂幸太郎／著	新潮社	6冊	5回	無	
	2	鬼の囃音(あしおと)	道尾秀介／著	角川書店	5冊	2回	無	
	3	チーズはどこへ消えた？	スペンサー・ジョンソン／著 門田美鈴／訳	扶桑社	4冊	6回	有	1回
	4	ネバーランド	恩田陸／著	集英社	2冊	0回	無	
	5	バッテリー (1巻)	あさのあつこ／著 あさのあつこ／作 佐藤真紀子／絵	角川書店 教育画劇	2冊 7冊	3回 2回	有	1回
	6	人斬り以蔵 改版 人斬り以蔵 (大活字本) 上下	司馬遼太郎／著	新潮社 埼玉福祉会	1冊 2冊※	2回 0回	無	
	7	ビブリア古書堂の事件手帖 (1-1)	三上延／[著]	アスキー・メディアワークス	6冊	3回	有	1回
	8	夫婦善哉	織田作之助／著	新潮社 雄松堂出版	2冊 1冊	0回 0回	有 無	0回
	9	檸檬	梶井基次郎／[著] 梶井基次郎／著 げみ／絵	角川書店 立東舎	1冊 1冊	1回 0回	有	1回
	10	論理的思考力を鍛える33の思考実験	北村良子／著	彩図社	3冊	6回	無	
※大活字本の上下巻セットの資料を、2 冊分としてカウントしている。								

令和３年度年齢別登録者数・貸出者数

	人口	登録者数	令和３年度に 貸出実績のある登録者	貸出者数	年齢別人口 に対する登録者数の割合	登録者数に 対する貸出 実績のある 登録者の割合	全貸出者数 に対する年齢別貸出者 数の割合
10歳未満	10,075	2,895	2,190	19,128	28.7%	75.6%	3.1%
10歳代	12,599	5,494	2,699	22,079	43.6%	49.1%	3.6%
20歳代	14,389	4,056	1,960	19,131	28.2%	48.3%	3.1%
30歳代	15,614	4,558	2,952	51,528	29.2%	64.8%	8.4%
40歳代	22,229	7,331	4,825	110,714	33.0%	65.8%	18.0%
50歳代	21,509	5,884	3,983	101,285	27.4%	67.7%	16.4%
60歳代	16,568	5,165	3,662	106,883	31.2%	70.9%	17.3%
70歳代	21,069	6,918	4,927	144,422	32.8%	71.2%	23.4%
80歳代以上	13,500	2,773	1,709	40,411	20.5%	61.6%	6.6%
不明	—	30	20	573	—	—	—
合計	147,552	45,104	28,927	616,154	—	64.1%	—

- ・10歳代は、図書館訪問（小学２年生）の際に、利用者カードを登録していることから、年齢別人口に対する登録率は最も高く 43.6%であるものの、過去１年間での貸出実績は平均の 64.1%を下回る 49.1%であり、登録はしていても図書館が利用されていない状況である。
- ・20歳代は、年齢別人口に対する登録率は他の年代に比べ顕著に低くはないが 28.2%と低く、また過去１年間での貸出実績がある登録者数の割合も 48.3%と年代別で一番低く、若年世代の利用が少ない状況である。

令和３年度電子書籍ベストリーダー

順位	タイトル	著者表示	出版者	出版年	所蔵数	貸出回数
1	ちびくろ・さんぼ (うごくえほんチルピー)	ヘレン・バンナーマン 文	モーニング	20--	2	45
2	どうぞのいす(うごくえほんチルピー)	香山 美子 作	モーニング	20--	2	25
3	本好きの下剋上 第4部1 貴族院の自称図書委員 1	香月 美夜 著	TOブックス	底本:2018年刊	1	24
4	かがみの孤城	辻村 深月 著	ポプラ社	2017.5	1	23
5	ライオンのおやつ	小川 糸 著	ポプラ社	2019.10	1	22
6	本好きの下剋上 第3部4 領主の養女 4	香月 美夜 著	TOブックス	底本:2017年刊	1	22
7	うえへまいりまあす (うごくえほんチルピー)	長谷川 義史 作,絵	モーニング	20--	2	21
8	うさぎくんのぼうし (うごくえほんチルピー)	きしら まゆこ 作,絵	モーニング	20--	2	21
9	シャーロック・ホームズ「橙の種五粒」(シャーロック・ホームズ)	アーサー・コナン・ドイル 原作	パンローリング	201-	3	21
10	本好きの下剋上 第3部3 領主の養女 3	香月 美夜 著	TOブックス	2017.4	1	21

図書館の自己評価	【図書館の自己評価対象：【取り組み２】若年世代の利用促進 - 令和３年度は図書館の広報を多摩市公式ＳＮＳで発信することに全館で取り組み、グリナード永山でのパネル展示や学校教職員への利用案内配布により、図書館を利用しない多くの方に図書館を知ってもらうことができた。 - また、テーマ展示やブックリストの作成も計画的に行っており、ホームページにも常時掲載することで、本選びの参考にしてもらえているのではないかと。しかし市内の学校への配布はしていないため、手法について検討が必要である。 - 中高生参加型、学校連携、他校の生徒との交流ができるイベントは、感染状況もあり実施できなかった。今後は若年世代にとってビブリオバトルが有効なイベントなのかも再検討しつつ、中高生参加型のイベントを実施する。 - 令和３年度の電子書籍ベストリーダーは上位１０位に『かがみの孤城』や『本好きの下剋上』などのライトノベルなどの若年世代に人気の作品があり、デジタル世代を意識した選書をする事で、若年世代を新たな利用者として取り込むことが期待できる。 １０歳未満の子どもや１０歳代、２０歳代の利用状況をみると、１０歳代未満の子どもは主に保護者が利用者カードを作成し、一緒に図書館を利用することから登録後も良く図書館を利用しているが、一人で図書館を利用できるようになる年代である１０歳代になると図書館訪問などで来館する児童には学校を通じて図書館の利用登録をするため、年代別の人口に対する登録率は高い反面、登録後も引き続き貸出をした実績がある登録者の割合は少ないのが現状である。 - またその後に続く世代である２０歳代についても、登録率、登録後の貸出実績者の割合とも低く、図書館を利用されていない状況である。保護者同伴での利用から、個人の利用者として利用できるような年代になった時に、引き続き図書館を利用してもらうような意識づけや動機付けなどが課題となる。１０歳代の世代に公共図書館を利用してもらうためには、利用しやすい環境整備のほか、学校を通じた働きかけとして現在も取り組んでいる「教育委員会だより」でのＰＲや教職員、学校司書を通じたＰＲなどに引き続き努めていく。
図書館協議会の外部評価	【図書館協議会の外部評価対象】：【取り組み２】若年世代の利用促進 - 自己評価で「図書館を利用しない多くの方に図書館を知ってもらうことができた」とあるが、抽象的な表現のため、検証はどのようにしたのか。数値として取りにくくてもイベントに参加した市民の声やメール、アンケート結果で評価するという声があったなど記載するべきである。 - ＳＮＳを活用したＰＲの評価として、フォロワー数や情報発信した後のフォロワー数の推移など具体的な数値があると効果が計れるのでできるだけ数値化することが望ましい。 - 多摩市の公式 Twitter や LINE で図書館から情報発信を定期的にする事で、登録している利用者は、図書館に来館、図書館ホームページをチェックしなくても図書館の情報が入るのでこの取り組みは評価できる。発信していくことが重要である。 - 市内の学校へのＰＲ手段として定期的なお知らせのほかに各学校のホームページなどの活用することが望ましい。 - コロナ禍の中、グリナード永山で実施したほんともフェスタでの展示は、様々ことを実施することが難しいなかで工夫されており、評価できる。 - NDC 擬人化キャラクターは小学生にもなじみやすく、若い人には好評のようなので、図書館の本を使うために NDC が身近になるよい取り組みであり評価できる。 - 中学生の利用を増やすには、図書館職員が、学校に出向いて電子図書館を体験する説明会や中学生に

対して絵本の読み聞かせなどのアウトリーチサービスができるとよいのではないかな。

- ・中央図書館の開館は、図書館の利用をしていない生徒たちを図書館利用に取り込む良い機会となるため、本館閉館前から中央図書館をPRするべきである。
- ・電子書籍のベストリーダーのランキング上位に『かがみの孤城』が入っているのは、若年世代の利用について脈がある証である。紙の本が小・中学校の学校図書館にもある人気作品のコンテンツを収集すべきだ。
- ・10歳代の登録が他の世代に比べ高い理由として小学校2年生の図書館訪問があるが、よい取り組みなので今後も続けてほしいが、継続的な利用がされていないことについては課題である。利用を促す機会として令和5年に開館する中央図書館の最初のインパクトが重要である。中央図書館から遠い地域の学校も知る機会をつくれるよう、学校単位での見学会（送迎あり）など難しい面もあると思うが検討すべきだ。中央図書館を1回でも経験する機会を設けることでその後の図書館の利用につなげることができるのではないかな。
- ・ほんとにフェスタでビブリオバトルの紹介展示を行い、図書館を利用しない市民にも広くPRできたとあるが、大学で作成したPOPを掲示することで紹介した本が貸出されたのかなど実績がわかれば効果が測れる。次につなげるためにも貸出実績などから効果検証をすることが望ましい。
- ・ほんとにフェスタなど市民や大学の協力を得て実施したイベントについて、実施後に協力した市民や大学等への実績報告をすることが望ましい。
- ・若年世代の図書館利用を促進するために多様な手段で行うという考え方は評価できる。具体的な手段として例えば八王子市は、多摩市にはないが学校図書館サポーターがいて、図書館で学校図書館サポーターの協力を得て、小学校3年生から5年生を対象に調べ学習サポートとしてテーマ設定から調べ、レポートの書き方までの事業を実施していた。中央図書館ができた際に探究学習を支援するような取り組みを実施することが望ましい。
- ・10歳代未満の子どもは親子で利用する場合、親のカードで借りることが多く、そのため、実際は図書館を利用していても実績の数字としては表れていないこともあるのではないかな。数字だけで判断はできないことを認識するべきだ。
- ・10歳代、20歳代は、自習目的の利用など貸出を伴わない利用も多く、利用実績は貸出数だけではなく年代別の来館者数、電子書籍の利用数など総合的に見るべきである。まず図書館に来館してもらえることが重要である。また10歳代の利用実態を図る際には、10歳代とひとくくりにするとう小学生から大学生までがひとくくりになるため、1歳刻みなどもう少し細かくデータを出すことが望ましい。その結果より動向をつかみやすくなるのではないかな。
- ・年代別の来館者を把握するには、ICカードを導入すればしやすくなるが、無い場合でも一定期間、アンケートを取ったり、カードを入口で配布、回収することで簡単にとることもできるので検討するべきである。
- ・学校にブックリストを配布できていないとのことだが、紙の配布方法の検討だけでなく学校図書館ホームページなどデジタルデータでの配布などさまざまな方法を検討するべきである。

今後の方向性	・ 図書館を利用していない若年世代の市民の図書館利用を促すため、引き続き本の紹介やイベント紹介などを多摩市の公式 Twitter や LINE で図書館から情報発信を定期的に行うとともに、利用の効果検証が計れるよう工夫する。 ・ 令和 5 年 7 月の中央図書館の開館が図書館利用につながるきっかけとなるよう、中央図書館の P R を市内の学校やイベント等を通じて積極的に行っていく
---------------	--

基本目標 (2) 子どもへのサービスの充実	
評価項目 【取り組み 4】 第三次子どもの読書活動推進計画の推進	
① 第三次多摩市子どもの読書活動 推進計画に基づき各施策を推進する。また、計画期間の6年間を見渡した上で、令和3年度は次の推進事項について、重点的に取り組む。【継続】 ② 児童、生徒に向けた電子図書館のPR 【新規】 ③ 図書館ホームページの子どもの読書に関わるページの情報の充実。【継続】 ④ ブックリスト「よんでみよう！」の改訂をおこなう【継続】 ⑤ 学校図書館への支援と課題の検討【継続】 ⑥ 図書館を利用していない児童、生徒の利用につながるよう児童館等と連携しての図書館のPRについて検討、調整を進める【継続】 ⑦ マルチメディアデジのPRなどを実施し、支援の必要な子どもたちへの取り組みを推進する。【継続】 ⑧ 図書館を利用していない児童や保護者へ働きかけるため、講座等のイベントを実施する【継続】 ⑨ 児童や保護者の図書館利用を促進するため、本を手に取りやすい環境を作る【継続】	
実施結果 (具体的な取り組み状況)	【取り組み 4】 第三次子どもの読書活動推進計画の推進 ① 第三次多摩市子どもの読書活動 推進計画に基づき各施策を推進する。また、計画期間の6年間を見渡した上で、令和3年度は次の推進事項について、重点的に取り組む。【継続】 ・アクションプランの振り返りと更新を行い、アクションプラン（令和3年度版）（冊子）を11月に作成、図書館内、関係課、市内小中学校に配付した。図書館内、関係課、市立小中学校で活用し、各施策の計画的な推進を行った。また、計画推進の中間報告を3月に教育委員会等で行った。【継続】
	② 児童、生徒に向けた電子図書館のPR 【新規】 ・図書館を利用していない児童やその保護者への働きかけも意識して、小学生向けの「多摩市立図書館ニュース」を新たに7月に発行し、市立小学校を通じて全児童、各館に配布した。ニュースの中で電子書籍・電子図書館やマルチメディアデジ図書の記事を載せ、PRした。【新規】 多摩市立図書館ニュース（小学1～3年）、 多摩市立図書館ニュース（小学4～6年）
	③ 図書館ホームページの子どもの読書に関わるページの情報の充実。【継続】 ・図書館ホームページの情報充実のため、ティーンズ向けの企画展示を実施する際に、ブックリストを作成し、図書館ホームページに掲載した。また、展示期間終了後も図書館ホームページの「ブックリスト」内に掲載した。 ➤ ティーンズブックリスト作成テーマ数 本館5件 永山3件 東寺方2件
	④ ブックリスト「よんでみよう！」の改訂をおこなう【継続】 ・ブックリスト「よんでみよう！」3、4年生の改訂を行った。【子ども読書】 ➤ 改訂版発行 令和4年4月
	⑤ 学校図書館への支援と課題の検討【継続】 ・令和元年度に実施した実態調査の結果を踏まえ、「読んでみよう」の改訂にあたっては、学校からの意見を参考にした。また要望のあった多摩市立小学校・中学校の教員向けに図書館の利用を案内するリーフレットを作成し、全校に配布した。 ➤ 多摩市立図書館利用案内 8月発行

⑥ 図書館を利用していない児童、生徒の利用につながるよう児童館等と連携しての図書館のPRについて検討、調整を進める【継続】

- ・各課連携企画展示「児童虐待防止啓発展示」を図書館、児童館、保育園、子ども家庭支援センターと連携、協力して企画、実施し、期間中は各施設に本、ブックリストを展示することで、図書館を利用していない児童、生徒へ向けても図書館のPRをした。

➤ 児童虐待防止啓発展示 実施期間 11月1日～30日
実施施設 11施設

- ・児童館を利用する児童・保護者の図書館利用につなげるため、豊ヶ丘児童館「のんびりルーム」の棚に図書館のおすすめの本と図書館の利用案内・利用申込書等を置き図書館をPRした。

⑦ マルチメディアデイジーのPRなどを実施し、支援の必要な子どもたちへの取り組みを推進する【継続】

- ・教育委員会だよりでマルチメディアデイジーを含む障がい者サービス資料の案内を掲載し、市内小・中学校に児童・生徒に広くPRした。

⑧ 図書館を利用していない児童や保護者へ働きかけるため、講座等のイベントを実施する【継続】

- ・第13回子ども読書まつりの講演会では、図書館を利用していない児童や保護者へ働きかけるため、
(1) 今、市民、児童、生徒の関心の高いテーマもの (2) 対象年齢を10～20才代に設定したもの (2講座) を開催した。

➤ (1) 「感染症と人類の戦い～新型コロナウイルスまで～」3月19日(土)実施 参加者35人
アンケートからは、「感染症について正しく理解することにより、正しい対応、予防につながると思った」や「“知るを支援する”図書館の趣旨にあった講演だった」など役に立ったとの多くの意見が寄せられた。

(2) 「すてきな紙芝居の世界」～その秘密と演じ方～3月26日(土) 参加者20人
アンケートからは、「紙芝居の良さや奥深さを知ることができた」や「多くの読み手による紙芝居を見ることができて楽しかった」などの意見が寄せられ好評であった。

- ・感染症防止対策を図りつつ、各図書館で子ども達が密にならないように、方法や期間を工夫して児童を対象にしたクイズラリーなどのイベントを実施した。

➤ クイズ
7月20日～8月31日 関戸図書館 参加者約50人
10月30・31日 東寺方図書館 参加者61人
3月25日～4月30日 永山図書館

➤ 特別展示
7月20日～8月31日 永山図書館
12月25日～1月31日 永山図書館

⑨ 児童や保護者の図書館利用を促進するため、本を手に取りやすい環境を作る【継続】

- ・赤ちゃん絵本、児童読み物の書架管理を重点的に実施し、児童書の廃棄・保存・買い替え等検討や本を整理し本の面だしを多くするなど取りやすい環境の整備を進めた。

永山図書館で「ゆうかり教室」の児童・生徒に向け、図書館や司書という仕事の案内を実施した。

➤ 12月2日 参加 18人（うち生徒12人）

永山図書館で都立桜の丘学園4年生へおはなし会を実施、5年生へのおはなし会実演指導を実施した。

➤ 1月19日 参加 4年生16人 5年生33人 4年生教諭5人 5年生教諭11人

実施結果	・コロナ禍で被爆地派遣の平和学習について現地への派遣が中止となったため、休館日の図書館本館で平和についての調べ学習を実施した。 ➤ 8月参加 8人
図書館の自己評価	【図書館の自己評価対象：【取り組み4】第三次子どもの読書活動推進計画の推進 ・第三次計画のアクションプランを引き続き作成することで、これまでの取り組みの「見える化」が出来ており、進捗状況に応じて内容を更新することで、計画的に推進が出来ていると考えている。また、令和3年度は、計画期間の前半（平成30年度～令和2年度）の推進の中間報告を教育委員会等で行った。このことにより前半の課題を確認できた。この中間報告を参考にし、さらに計画の推進をすすめている。 ・市立図書館のPRの一環として、小学生向けの「多摩市立図書館ニュース」を発行したが、1面には中央図書館開館の記事を載せた。学校を通じて全児童（保護者）に配付されるものであることから、周知する方法として大変有効であったと考えている。令和4年度は中学生向けも発行する予定である。 ・ブックリスト「よんでみよう！」（3、4年生）の改訂は、1、2年生に引き続き、読書が苦手な子どもにも読みやすい本を入れたり、読み物ではない分類本をバランスよく入れたりするなどの工夫をした。また保護者へのメッセージを表紙に入れ、保護者への啓発も続けている。全児童が手にするブックリストを、大幅な見直しをしながら計画的に更新していることは、学校図書館司書、司書教諭への影響も大きく、学校現場での子どもの読書啓発に効果があると考えている。 ・学校（教員）からの要望に応じて【多摩市立小学校・中学校 教員向け 多摩市立図書館利用案内】を発行したことで、図書館を利用して学校の授業で調べ学習やGIGAスクール構想・ICT教育を行う際の基本的事項を教員に向けて一斉に周知することができた。また要望にタイムリーに応じたことで、令和4年度の司書研修会等での説明会に発展するなど学校連携の活発化につながっている。 ・基本方針である「市民の「知る」を支援する」図書館をめざし、また図書館を利用していない児童や保護者へも働きかけるため、「第13回子ども読書まつり〈ほんともフェスタ〉」の講演会では、従来の講演会に加えて、今、市民、児童、生徒に関心が高いもの（感染症について）をテーマに専門家を招き開催した。コロナ禍で小中高生の参加は無かったが、これまで文学系であったテーマ枠を自然科学系へと広げることができた。 ・児童館等とコロナ禍における連携について打合わせは年度内に出来なかったが、令和4年度に実施する。 ・永山図書館にて、コロナ禍ではあるが都立多摩桜の丘学園やゆうかり教室との新たな形での連携を進めている。またマルチメディアデジ図書のPRを始めた。 ・令和2年度に本館で実施したNDC擬人化キャラクターを展示やホームページで活用し、ティーンズに向けてのPRを効果的に行っている。 ・コロナ禍ではあるが、各館において定例おはなし会や夏休み等のイベントの工夫、児童館等との連携を継続しており、また日常業務の中で書架整理などの読書環境を積極的に行った。

図書館協議会の外部評価	【図書館協議会の外部評価対象】：【取り組み4】第三次子どもの読書活動推進計画の推進 ・実施結果にPRしたという記述があるが、PRできたのかどうか効果検証ができているのか見えにくいため、PRする行為が目的となっているように見え、自己評価の記述に説得力がない。例えばイベント実施については、アンケート結果について記載があり、自己評価についても説得力がある。全ての事業は難しいと思うが、できるだけ効果や結果を示すべきである。 ・「よんでみよう！」3年生、4年生向けは、NDCや作成年月が入り、昨年度の評価での意見が反映されている。また表紙に大人の方へという文言があるので保護者の目に留まり評価できる。 ・図書館ニュースも見やすく評価できる。中学生向けも楽しみにしている。 ・調べ学習用の図書の貸出を図書館から学校に配送しているのは、図書館に直接来館しなくても学校図書館を通して図書館の資料の利用ができている良い取り組みなので継続することが望ましい。 ・図書館を利用していない人に来てもらうようにするには、「よんでみよう」などのパンフレットの配布だけでなく、図書館に直接来館する方法や仕組みを考える必要がある。直接図書館に来る機会を増やすため、バックヤードツアーは5、6年生など年代を上げてできることが望ましい。 ・小学生の低学年が一人で図書館に来ることは、現状では難しい。プロを呼んで、例えば音楽を取り入れたお話し会などを企画し、親子で楽しめるイベントを企画してもよいのではないかと。 ・施策に魅力が無いと図書館を利用していない方は来ない。中央図書館の開館は図書館を知ってもらう最大のチャンスであるので、新聞やテレビ、その他のメディアを上手く使いPRすることで関心がない方にも働きかけることができる。 ・子ども時代に図書館で良い体験をすれば、20代になって図書館を利用しなくなったとしても、その後また図書館に帰ってくるので子どもが図書館に親しめる取り組みを行うことが大切である。 ・今回の講演会は、保護者には働きかけができたことは評価できるが、子ども達には効果があったのか疑問である。取り組み方法やPRを含め、テーマの設定が対象と合っておらず、感染症など話題性があるからやったというふうに見える。 ・講演会をインターネットでのリアルタイム配信や終了後に内容をYouTubeで配信するなど広く見てもらうための検討をすることが望ましい。
今後の方向性	・第三次多摩市子どもの読書活動推進計画を着実に推進していく。 ・「よんでみよう！」の改訂、「多摩市立図書館ニュース」発行など、児童・生徒、保護者への情報発信を継続していく。 ・子どもたちに実際に図書館に来館してもらえようような取り組みを進めるとともに、電子図書の利用等の促進にも力を入れる。 ・学校図書館のICT化への協力等、引き続き学校との連携の充実を図る。

基本目標 (3) 市民や地域に役立つ図書館	
評価項目 【取り組み6】 読書活動振興のためのイベントの開催	
① 市民の図書館利用の促進を図るため、図書館について関心をもってもらえるイベント等を検討し、実施する。【継続】	
実施結果 (具体的な取り組み状況)	① 市民の図書館利用の促進を図るため、図書館について関心をもってもらえるイベント等を検討し、実施する。【継続】 ・図書館に関心をもってもらい、図書館利用につなげるためイベントや利用者から意見を聞く場を設け実施した。 ➤ ミニ仕事体験&バックヤードツアー 感染防止対策を踏まえ、図書館本館のバックヤードツアーを実施し、図書館を利用する際に役に立つ資料詳細票（レシート）の見方の説明や多摩市電子図書館の紹介、普段は市民に公開していない書庫の見学、実際の書架から本を探す体験や本のカバーかけの体験を行った。 11月27日（土） 午前10時30分～正午参加者 17人（定員20人 申込22人） ・当初想定していた年齢層は、小学3年生以上の参加者は少なく、実際は小学3年生以下の児童と保護者の親子で参加した方が多かった。小学生が全体の50%を占めたが、大人個人の参加もあった。また日常的に本館を利用している方は25%と、参加された方の多くが本館以外の図書館を利用されている方であった。 ・アンケート結果から、参加の理由は業務や館内を見てみたかったという60%と高く、また印象に残った内容もツアーが43%、カバーかけ体験が57%であった。 ・内容については満足73%、普通が27%、時間についてもちょうどよい80%と参加者の満足度は高かった。 <参加者からの感想> ・小学生低学年向けのツアーや中央図書館のツアーや紹介イベントの希望 3件 ・同様のイベントをやってほしい、書庫等普段入ることができない所に入ることができて楽しかった 3件 ・カバーかけ体験が楽しかった、カバーをかけた本が持ち帰れてよかった 2件 ・昔の本をみる、カウンター体験の実施や門あてクイズ、レファレンスのことや書庫についてもう少し詳しく聞きたいなどの感想も寄せられた <図書館からのプレゼント> ・市民の方からの寄付されたブックカバー（7枚）、手提げ袋（10枚）を配布し、好評であった。

実施結果	➤ 利用者懇談会 利用者懇談会の実施し、図書館の令和2年度の利用状況や電子図書館、デジタルアーカイブについて紹介するとともに、参加者から図書館利用について意見交換をおこなった。 本館 11月27日（土） 参加者4名 東寺方 12月11日（土） 参加者5名 ➤ ビブリオバトルの紹介展示 ビブリオバトルの開催はコロナ禍のため、開催しなかったがPRのため第13回子ども読書まつりの展示の中で図書館の事業を紹介する展示の一つとしてビブリオバトルの紹介展示をおこなった。またビブリオバトルを共催で実施している大妻女子大学図書館サークルOLIVEにおすすめ本として紙の本や電子書籍の紹介POPを作成してもらい、ビブリオバトルの紹介と合わせて展示した。 グリナード永山会場 2月26日～3月1日 本館 3月7日～31日 POP作成数 10タイトル（内、紙と電子と両方ある書籍 5タイトル）
図書館の自己評価	【図書館の自己評価対象：【取り組み6】読書活動振興のためのイベントの開催 【ミニ仕事体験&バックヤードツアー】 ・ミニ仕事体験&バックヤードツアーについては、実際の参加は17人であったが定員20人に対し22人の申し込みがあったことから興味、関心があるテーマ、内容だったと言える。また70%の方が満足と答えており、図書館への関心、理解を深めることができたと言える。 ・電子図書館の利用方法や分類の説明を盛り込むことで、図書館の使い方について理解を深めてもらうことができたが、やや低学年の子どもは退屈していた子も見受けられたため、飽きないようにクイズ形式にするなど方法を工夫する必要がある。 ・作業室や書庫の普段は入れない場所について、説明を興味深く聞いていただき、本探しも想定より早く見つけることができていた。親子で参加していた方が多かったこともスムーズにできた一因と考えられる。利用者アンケートで、もう少し書庫の説明を聞きたかったとの回答もあったため、今後実施の際は、工夫したい。 ・本のカバーかけについては、子どもでも簡単にかけられることができるよう、かけやすい本を選び本体のみとした上で、ブッカーもあらかじめ本の大きさや形に合わせて切るなどの下準備を行った結果、想定よりもスムーズに行うことができ、60%近い方が印象に残った内容として挙げ、好評であったと言える。 ・アンケートでは、今後参加してみたい内容についてさまざまな意見が寄せられたことから、今後実施する際の参考にしたい。 【利用者懇談会】 ・曜日の設定を土曜日とし、参加しやすいように工夫したが結果としては参加者が少なく、開催時期やPR方法など課題が残った。次回開催に向けて改善点を検討する。 ・新たに開始した電子図書館やデジタルアーカイブについて、説明することができPRすることができた。

図書館の自己評価	【ビブリオバトルの紹介展示】 ・コロナ禍のためビブリオバトルの開催はしなかったが、グリナード永山で昨年度に引き続き、ビブリオバトルの紹介する展示を行うとともに大妻女子大学の学生のおすすめ本のPOPも掲示することで普段図書館を利用しない市民に対してもビブリオバトルを広くPRすることができた。
図書館協議会の外部評価	【図書館協議会の外部評価対象】：【取り組み6】読書活動振興のためのイベントの開催 ・ミニ仕事体験&バックヤードツアーについては、内容も子どもの教育上有効であり、評価できるが、図書館が当初想定していた小学3年生以上から大人までという年齢層の参加が少なかった事については、広報が対象者に届いていたのかなど時期や方法などを検証し、今後に生かすことが望ましい。 ・ミニ仕事体験&バックヤードツアーの参加者が小学3年生以下の子どもと保護者が多かったという事は、チラシの表記や受ける印象が保護者が子どもに体験させてみたいと思う内容であったと考えられる。ミニ仕事体験はよい取り組みではあるが、小学3年生以上を対象としたものだけでなく低学年用バージョンの実施についても検討することが望ましい。 ・ミニ仕事体験&バックヤードツアーの開催時期を夏休みの時期に行えば、自由研究として取り組める内容である。開催時期についても今後検討することが望ましい。 ・読書活動のイベントは参加者の数が多ければよいというものではないが、イベントを実施する際には、対象者に届くような告知方法を考えることが大事である。 ・利用者懇談会の参加者が少なかったのは、コロナ禍で定員を絞っているということであるが、絞った上でも参加者が少ないため、利用者が参加をしてみようと思えるようなPR方法を工夫することが望ましい。 ・利用者懇談会は、普段から図書館に関心がある利用者だけでなく、図書館をあまり利用していない市民などにも広く参加してもらえよう、楽しい催しと組み合わせるなど敷居を低くする工夫や例えば市長に参加してもらおうなど利用者懇談会の方法を見直すほか、周知方法も工夫することが望ましい。 ・ビブリオバトルについて、自己評価で広くPRできたとしている根拠が薄い。展示を市民が見た事が測れるよう、例えばPOPにフセンなどを貼ってもらうなど効果測定ができる工夫をすることが望ましい。 ・ビブリオバトルは、小学校でも実施している読書活動である。今後は展示だけでなく、図書館でも対面のビブリオバトルの再開を検討することが望ましい。実施にあたっては世代を分けての実施を検討することを望む。
今後の方向性	・ミニ仕事体験&バックヤードツアーについては、小学3年生から大人までを対象としたプログラムで引き続き実施していくとともに、保護者の関心も高いことから、小学3年生以下を対象としたプログラムについても実施に向け内容を検討していく。 ・利用者懇談会については、図書館を普段利用しない市民が参加しやすいように、広報の方法や内容を見直し、実施していく。 ・ビブリオバトルは、中央図書館開館を機に活動室等を活用し対面で実施できるよう検討する。 ・イベントの開催PRを行う際には、イベント対象者に情報が届くよう広報の方法や、対象向けの表現などを工夫し実施する。

基本目標（４） しらべるを支え、つながる図書館	
評価項目 【取り組み１０】 デジタル資料の提供	
① 関係課等と連携し、地域資料、貴重資料のデジタル化を進め、アーカイブとして公開するとともに、電子書籍化した地域資料を電子図書館で公開する。【継続】 ② オンラインデータベースの利用促進のため、利用講座などを実施する。【継続】 ③ 電子図書館用電子書籍コンテンツを充実させるとともに、電子図書館の利用促進を図る。【新規】	
実施結果（具体的な取り組み状況）	① 関係課等と連携し、地域資料、貴重資料のデジタル化を進め、アーカイブとして公開するとともに、電子書籍化した地域資料を電子図書館で公開する。【継続】 - デジタルアーカイブに新たに『市制施行 50 周年記念誌』や小中学校の社会科副読本、多摩の民話などのコンテンツを公開した。作成にあたっては、教育委員会教育振興課文化財係やパルテノン多摩学芸部門と連携し解説等を加え、学習や地域研究に役立つものとなった。 - パノラマから見る多摩市の小中学校（統廃合の小中学校含む）・文化財、多摩の民話『おしゃもじさま』のデジタル紙芝居の公開、多摩の郷土写真、小中学校社会科副読本、『市制施行 50 周年記念誌』、多摩の民話 3 点の動画、市指定文化財等 4 点のパノラマ画像の公開 - 閲覧回数：328,812 回（4 月～3 月） - 電子図書館で多摩市独自資料（ログイン不要コンテンツ）として、市民に役立つ資料である「多摩市観光マップ」や「多摩市の便利な本」など各課で配布している広報誌を電子書籍化し、電子図書館に掲載した。 - 独自資料掲載タイトル数 令和 2 年度 12 点 令和 3 年度 33 点 - 独自資料閲覧回数 3,415 回
	② オンラインデータベースの利用促進のため、利用講座などを実施する。【継続】 - 国立国会図書館のデジタル送信サービス等を含むオンラインデータベースの利用促進講座を感染予防対策をとり開催するため、対面方式でない実施方法について検討したが、設備的な課題があり実施できなかった。 - レファレンス等で利用者に案内ができるよう職員向けに法律情報のオンラインデータベース研修を実施した。 7 月 法律情報データベース研修（TKC ローライブラリー） 参加者 26 人
	③ 電子図書館用電子書籍コンテンツを充実させるとともに、電子図書館の利用促進を図る。【新規】 - 令和 3 年度は、児童向け、ティーンズ向けのコンテンツや子育てに役立つコンテンツの充実を図るとともに、引き続き小説や実用書など利用が見込めるコンテンツを購入した。また英語学習や日本語を母語としない利用者の利用のため英語多読や昨年度購入できなかった洋書コンテンツを購入し充実を図った。 - 新規購入電子書籍数 一般向け 2,156 点、児童向け 692 点（内 洋書 134 点、英語多読 77 点、） バリアフリー対応「声の本」321 件更新

- ・電子図書館の一般や児童、ティーンズを対象とした特集数を令和2年度に比べ増設し、TOP画面に15～20テーマ（1テーマに50～100コンテンツ）を常に表示するよう運用し、トップ画面に表示される電子書籍を定期的に入れ替え、画面の新鮮度を保つようにすることで、貸出につながるように努めた。また新たな電子書籍を受入れた際には、多摩市公式SNSで情報発信しPRした。

➤ 特集掲載数 32テーマ

常設（1年を通じて掲載） 12テーマ

2～4か月ごとに更新 20テーマ

➤ 多摩市公式SNS掲載数 8回

- ・電子書籍の利用促進を図るためパスワード発行方法を見直し、図書館ホームページや利用者用端末から利用者自身が発行できる機能を追加するように図書館システム業者や関係課等と調整し、実施に向け機能追加や要綱改正等を行った。令和4年4月7日から開始。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用登録者数	89,959	47,216	45,107
パスワード登録数	41,190	26,217	28,054
パスワード登録数割合	47.4%	55.5%	62.2%

※利用登録者数について：令和3年3月から貸出や予約を2年以上行われていない利用登録者を利用停止とする利用者データメンテナンスを実施した。

- ・電子図書館の利用状況を把握する指標を設定した。設定した指標、所蔵数に対する貸出回数として貸出率及び全貸出回数に占める閉館時間中の貸出回数が占める割合について、目標値に達した。

	目標値	令和2年度	令和3年度
電子書籍貸出率（貸出回数／所蔵数）	1以上	1.17	1.8
全貸出回数に占める閉館時間中の貸出回数が占める割合（閉館時間中の貸出回数／全貸出回数）	0.5以上	0.5	0.5

図書館の自己評価

【図書館の自己評価対象：【取り組み10】デジタル資料の提供

【デジタルアーカイブ】

- ・小中学校学習用コンテンツとして、トップ画面にESDのイメージキャラクターのゴーヤンを入り口に設け『小・中学校社会科副読本』をはじめ、『多摩市史』、『調布玉川惣画図』、『縄文土器』など、子どもたちの学習、多摩地域の歴史研究に役立つデジタルコンテンツをまとめて掲載したことにより、授業、家庭学習、調べ学習などで活用しやすくなっている。また、学校の授業等で活用しているリンク先(NHK for School、国土地理院、国立国会図書館)を掲載した。総アクセス数は、令和3年10月の1日平均972件から新しいコンテンツ公開後の11月は、1日平均1,347件と上昇しており、その後も同レベルを維持している。

図書館の自己評価	・多摩市内パノラマ映像では、小・中学校を校歌や写真で紹介するとともに、統廃合となった幼稚園、小中学校も校歌の歌詞と写真で紹介したことで、子どもたちも親しみを持って活用できるようにしている。 ・多摩市の特色である、多摩ニュータウン開発の基本構想や基本方針の他、多摩市の特色である緑豊かな公園、数多く設置されている橋梁、ニュータウン開発区域の住宅地を紹介することで、多摩市のことをより広く学ぶことができるようにした。 ・市指定有形文化財「旧多摩聖蹟記念館」、江戸時代の建物と推定される多摩市の典型的な農家住宅「旧加藤家」「旧有山家」「旧富沢家」を立体映像で紹介することで、現地での見学の前に、実際に建物内を見て回り、現物を見学している感覚で学習することができるようになった。 ・デジタルアーカイブシステムA D E A Cに掲載したことで、全国のデジタルアーカイブを横断的に活用することが可能である。例えば、『調布玉川惣画図』は、小島資料館所蔵の資料や国立国会図書館所蔵の資料があり、リンクを貼って比較することができるようにした。 【電子図書館】 ・ティーンズ向けや子育てに役立つコンテンツの充実を図るとともに、小説や実用書など利用が見込めるコンテンツ、英語多読、昨年度購入できなかった洋書コンテンツを購入し、充実を図った。 ・利用者が最初に目にするトップページで書影が表示される特集ページを対象別に作成し定期的にコンテンツを入れ替え画面の鮮度を保つようにし、利用促進を図った。 ・コンテンツの発注方法の変更があり、新規タイトルの受け入れ9月頃となってしまう、利用が落ち込んでしまった。その後利用が伸びてきたが導入当初の令和3年2月や3月に比べると月ごとの利用状況は少ないため、定期的な購入や特集などのページの鮮度を保つことが、利用促進の上で重要であるといえる。 ・電子書籍の貸出率は令和2年度の1.17から1.8となり、所蔵数に対しての貸出率が令和2年度を上回る結果となった。電子書籍は、所蔵数に限りがあり、検索して借りる機会が少ないことから引き続きトップ画面でテーマなどの特集による紹介に取り組み、利用促進に努めていく必要がある。 ・閉館時間中（本館の閉館時間）における電子図書館の利用が、全貸出の0.5を占めており図書館の開館時間に関わらず利用されている。引き続き非来館型のサービスとしてコンテンツの充実を図り、利用促進に努めていく。
図書館協議会の外部評価	【図書館協議会の外部評価対象】：【取り組み10】デジタル資料の提供 ・デジタルアーカイブは、図書館として重要であり、今後より大事なツールになっていく。「多摩市史」、「多摩市市制施行50周年記念誌」は、来館せずにインターネット上で調べたいことが検索でき、誰もが利用しやすいことから評価できる。 ・デジタルアーカイブの社会科副読本は、児童生徒だけでなく、多摩市のことをあまり知らない先生にとっても勉強できるため、重要でありとても評価できる。 ・デジタルアーカイブについては、様々な機会をとらえて利用促進を図っており、一定数閲覧されており評価できる。 ・電子図書館の独自資料についても利用促進が図られており、評価できる。今後は利用者からの意見を聞く機会を設けるなども検討していくことが望ましい。

図書館協議会の外部評価	・電子図書館や予約等で使うパスワード登録について方法を見直し、利用者自身で発行や変更ができるように方法を工夫するなど利用者の利便性が高まり、評価できる。 ・電子書籍は、コンテンツの書影が表示されるため、利用者の興味をひきやすくて良い。 ・デジタルアーカイブの学習用コンテンツについては、学校現場では、まだ活用ができていない。コンテンツや使い方について継続して校長会などで周知を図っていくことが望ましい。 ・電子図書館利用促進の告知はよく取り組んでいる。閲覧回数や貸出回数が落ちないように引き続き取り組んでもらいたい。 ・電子書籍の指標としている目標値は、令和3年度は目標値を上回っており目標を達成したと言える。今後、図書館として貸出率と上げていくことを目標とするなら、より高い目標値にすることが望ましい。 ・オンラインデータベース利用講座については、実施方法を検討した結果できなかったことは、仕方がないが、PRビデオなどの提供を事業者と調整するなど利用促進に向け引き続き取り組んでいくことが望ましい。
今後の方向性	・電子図書館の利用促進を図れるよう、引き続き新しい電子書籍を購入していくとともに、電子書籍を魅力を発信するためにトップページで表示される書影の入れ替え、特集の入れ替えを定期的実施する。また新たに電子雑誌コンテンツの導入を検討する。 ・電子図書館の独自資料については、引き続き庁内各課に協力依頼を行い充実を図っていく。 ・デジタルアーカイブの学習用コンテンツに関して、活用の仕方等校長会等を通して継続して周知を図っていく。また、教育振興課文化財係と連携し新しいコンテンツの公開などを検討していく。

基本目標（５） 弾力的な管理・運営	
評価項目 【取り組み１３】 職員体制の見直し	
① 専門性の向上のため、研修を実施するとともに都立図書館などが開催する外部研修へ職員を派遣する。 【継続】 ② 窓口業務やバックヤード業務の業務改善を検討し実施する【継続】	
実施結果 （具体的な 取り組み 状況）	① 専門性の向上のため、研修を実施するとともに都立図書館などが開催する外部研修へ職員を派遣する。【継続】 ・課内研修は、職員の専門性向上のため外部講師による研修を実施した。感染予防対策として参加人数の制限し、新人職員や専門スタッフ中心の実施となったが、レファレンス研修や接遇、児童サービス研修（ブックトーク）等の課内研修を実施した。また外部研修には、レファレンスや児童サービス、著作権、図書館司書専門研修等オンライン研修を含め常勤職員を派遣した。 ➤ 課内研修（７月・１０月・２月） ８回開催 参加者 ２１８人 ➤ 新任研修 一次（４月・１０月）５人 二次（１２月）５人 ➤ 外部研修 参加回数１１回 参加人数１２人 ・司書課程がある大学からの依頼で図書館実習の大学生及び市内小・中学校の依頼により教員初任者研修者を受入れた ➤ ８月１６日～２７日（１０日間） ２大学２人 ２校 ２人
	② 窓口業務やバックヤード業務の業務改善を検討し実施する【継続】 ・７月の職員全体会で令和２年１０月の全体会に引き続き、中央図書館の開館を見据え、中央図書館運営に向けた係体制について案を元に係単位でグループ討議し、組織再編や業務の持ち方について検討した。 ➤ 令和４年度 総務係に中央図書館整備担当を移す組織改正を実施 ・業務の効率化を検討し、実施した。 ➤ 予約取り置き期限切れ資料の処理の省力化 予約取り置き期限切れ資料について、職員が手動で確認し削除処理をしていたのを、自動削除とし、事務の効率化を図った。令和３年７月から実施。 ➤ 予約の電話連絡に伴う業務の省力化 用意ができた予約資料について連絡方法を電話登録している利用者について、予約日から８日以上経過した予約について電話連絡していたが、利用者自身が利用者用端末や図書館ホームページで状況を確認できる方法を推奨、パスワード登録、メールアドレス登録の推奨キャンペーンを実施、市民へ周知をした上で予約連絡について原則電話での連絡をしないこととした。登録キャンペーンを令和３年７月から開始し、令和４年４月１日の予約から実施。 登録キャンペーンの結果、パスワード登録数、メールアドレス登録者数について着実に登録者数が増えた。 ➤ パスワード登録方法の見直し 利用者にパスワード登録を促すため、これまでの希望者に仮パスワードを発行していたが、新規登録や更新など窓口で手続きをした利用者に対し漏れなく仮パスワードを発行することに変更した。

実施結果

		令和元年度	令和２年度	令和３年度
実数	利用登録者数	89,959	47,216	45,107
	パスワード登録数	41,190	26,217	28,054
	メールアドレス登録数	21,528	15,645	16,703
割合	パスワード登録数	47.4%	55.5%	62.2%
	メールアドレス登録数	24.8%	33.1%	37.0%

※利用登録者数について：令和３年３月から貸出や予約を２年以上行われていない利用登録者を利用停止とする利用者データメンテナンスを実施した。

図書館の自己評価

【図書館の自己評価対象：【取り組み１３】職員体制の見直し

【職員研修について】

- ・当初は、職員のスキルアップのため、常勤職員や専門スタッフなどできるだけ多くの職員に参加をしてもらうことを想定していたが、コロナ禍のため人数を制限しての実施となった。専門スタッフを中心にレファレンスや接遇、児童サービスなど窓口で役立つ研修を外部講師を招いて実施ができた。レファレンスについては、法律情報の研修を実施し、利用者からの問い合わせにも対応ができるよう本やインターネット情報、データベースなど幅広く学ぶ機会をつくることができた。
- ・外部研修は専門知識を得る貴重な機会でありコロナ禍の中で、オンラインでの開催など制約が多かったが、常勤職員をレファレンスや児童サービスなどの専門研修に派遣することができた。

【職員体制や業務の見直し検討について】

- ・中央図書館運営に向けた係体制について案を基に係単位でグループ討議し、組織の再編や業務の持ち方について検討し、令和４年度に組織改正を行うことを決定することができた。
- ・窓口業務の効率化を検討し、期限切れの予約資料の取り出し業務や用意ができた予約資料の電話連絡などの業務を見直し効率化を図ることができた。また予約資料の電話連絡の業務を見直すにあたっては市民にパスワードやメールアドレス登録について登録を促すキャンペーンを実施し、登録率を上げることができ、市民の利便性も高めることができた。

図書館協議会の外部評価

【図書館協議会の外部評価対象】：【取り組み１３】職員体制の見直し

- ・研修は、図書館職員としての個人の資質や児童サービスなどの専門性の向上や組織全体的な底上げを目的に行うものである。人材育成は、図書館としてどういう人材を育成していくのかということを視野にいれ、実効性があるものとなるようにすることが望ましい。
- ・図書館は、雇用形態が様々な職員がいる組織のため、接遇など職員として必要な最低ラインの職務知識が得られるよう研修体制を築いていくことが望ましい。
- ・常勤職員、専門スタッフを含め、できれば全員が外部研修を定期的に受講できるように検討していくことが望ましい。
- ・図書館でのキャリア形成を考えた職員の育成計画を考えた上で研修していくことが望ましい。
- ・予約の電話連絡を止めるにあたり、パスワードやメールアドレスの登録をPRするなど利用者への周知を行い、パスワードやメールアドレス登録率も上がり、順調に進めることができていく。

	・利用者データメンテナンスにより、全体の登録者数が減っている中でパスワード、メールアドレスの登録率は前年度を上回っていることから多くの利用者が登録したと判断でき、登録を促すキャンペーンの実施は評価できる。また、市民の利便性の向上にも繋がった。評価できる。
今後の方向性	・ 中央図書館の開館を見据え、組織改正、事務分掌の見直しを行う。 ・ 引き続き、接遇、著作権、レファレンス、児童サービス、障がい者サービス等、図書館業務に関する知識習得のため、外部研修への派遣や外部講師による研修を計画的に実施していく。